

(別添資料1)

事業所名

闘竜舎

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

10 月

1 日

法人（事業所）理念		こどもたちが 1.いきいき暮らす 2.のんびり育つ 3.きらきら輝く ことを目指します。					
支援方針		理念や、共感的需要と交流を柱とした独自アプローチ「Tsubameアプローチ」（哲学的認識論）を礎とし、それを基礎に各種講座や集団のセッション、個別支援を実施し、5領域全般にわたる成長を促進する。感動や共鳴を生む「時空の間」の創生、心をコントロールする力をはぐくむことを療育の中心に捉え、個と共同性の精神発達を促していく。思春期を迎え、「おとな」、社会人になるための自己形成を促せるように支援していく。					
営業時間		9 時	0 分から	18 時	0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	通所時の体温などの管理。連絡帳やメールなどを通して保護者と連携して心と体の健康を保てるように支援していく。綿密な感染対策を実施する。通所時の荷物のかたづけなど身の自立を促し、事業所での療育の流れにスムーズに入れるように支援していく。食事やトイレなど必要に応じて支援している。					
	運動・感覚	粗大運動(ゲームや体操)や微細運動(工作や手先を使用した軽作業)を小集団活動や個別支援で支援していく。個別支援でも集団のセッションでも、精神発達のベースとなる周囲の現実世界の理解及びその中での自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。職業訓練やパソコンの操作の作業を継続的に支援して運動・感覚の分野の成長を促していく。					
	認知・行動	通所後宿題を個別指導している。教科の指導にかかわらず活動全般にわたって集団への適応が主体的に図れるように環境を整えている。集団の中で自己認識ができるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。ゲームなどの集団セッションではルールの徹底やルールの変更にも対応できる（こころをコントロールする力をつけていく）様に支援していく。					
	言語 コミュニケーション	個別支援でも集団のセッションでも、精神発達のベースとなる周囲の現実世界の理解及びその中での自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。活動全般にわたって丁寧な会話を心がけている。ホワイトボードなどを利用した点呼や言葉のやり取りで、文字の取得や言語の発達を促している。言語や文字の取得がほかの分野での成長につながっていることを認識して取り組みを進めている。					
	人間関係 社会性	小集団でのセッションは職業訓練のための軽作業を毎日実施している。精神発達のベースとなる周囲の現実世界の理解及びその中での自己認識が果たせるように感覚、情動、関心の共有を重要視している。個と共同性の精神発達を促進するため、療育者の言葉かけや支援を認識論という構成主義として採用。「私は私、私は私たち」という周囲との共同性を促して人間関係や社会性を培っていく。					
家族支援		連絡帳、メール、半期ごとのアセスメント、面談等を通じて支援の方向性を整えていく。				移行支援	同年代のこどもたちとの学びの場に戻していくために連携していく。就労等希望する進路の実現に向けて支援している。
地域支援・地域連携		地域自立支援協議会に積極的に参加しメソクラスの提言を行っている。また個別の課題ではケース会議や情報の共有で話し合いをすすめている。				職員の質の向上	「Tsubameアプローチ」を中心に毎月一度は職員会議などで職場内研修を進めている。また外部講師を招へいしたり、外部研修を受けて資質が向上できるようにしている。
主な行事等		クリスマス季節ごとの行事を積極的に推進。(固有の時間軸による自己認識を進めるため)。夏休みなどの買い物や公共交通機関利用の支援をする。またレストランでの食事やボーリング場の利用でSSTを実施している。					